

まいり給へりけるに、院いとおもしろき雪かなと、おほせられて、雪御覽せんとおもほしめしたりけるに、馬ぐしてまいりたる、いみじくかんせさせ給て、御隨身のまいりたりける、ひとり御ともにて、にはかに御幸有けるに、北山のかたざまに、わたらせ給ければ、その御隨身ふと思よりてもしをののきささきの、山すみし給などへや、わたらせ給はんずらんと思えて、かの宮にまうでつかうまつるものにやはべりけん、にはかにしのびて、みゆきのけさ侍、そなたさまにわたらせ給もしその御わたりなどへや、侍らんずらんと、つげきこえければ、かの入道のみや、その御よういありて、法華堂に三昧經しづやかによませさせ給て、庭のうへいさ、か人のあとふみなどもせず、うちいで十具ばかり有けるを、なかよりきりて、そで甘いださんよういありけるを、もしいで御らんずること、侍らん、いと見ぐるしくやと、女房申けれど、きりていだし給けるに、すでにわたらせ給て、はしがくしのまに、御車たてさせ給て、かくとやはべりけん、さやうに侍けるほどに、かざみきたるわらは二人、ひとりは玄ろがねのてうしに、みきいれてもてまいり、いま一人は玄ろがねのおしきに、こがねのさかづきすゑて、大かうじ御さかなにていだし給へりければ、御とも殿上人、とりてまいりて、いとめづらしき御よういにはべりけり、かへらせ給てのち、かしこくうちを御覽せで、かへらせ給ぬなど、ごたち申ければ、雪見にわたり給て、入給人やはあるとぞのたまはせける、月を雪ともきこえはべり、さて院より御つかひありて、いとこゝろぐるしく思やりたてまつるに、うちいでなどこそよういして、有がたくもたせ給へりけれとて、みののくにとかや御庄の券奉らせ給へりければ、まいりつかうまつる、をとこそんな、これかれのぞみけれど、みゆきつげきこえける隨身に、あづけたまひけるとぞき、侍し、そのとねりの名はのぶさだとかや、殿上人はなにがしの辨とかや、たしかにもき、侍ざりき、○又見古
今著聞集

〔春記〕長曆四年元長久十一月十一日壬戌、從曉更雪降、深及一尺三寸、終日不休、早旦參内、依雪興也、